

会

告

第 90 回講演大会講演募集案内

申込（原稿同時提出）締切り 昭和50年 7 月10日（木）

本会は第90回講演大会を昭和50年10月 1 日（水）、2 日（木）、3 日（金）の 3 日間北海道大学（札幌市北13条西 8 丁目）において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮ってご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和50年 7 月10日（木）までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表。
2. 講演時間 1 講演につき講演15分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛込まれていけるものとする。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙（1600字詰）1 枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は 2 枚までを認めます。（いずれも表、図、写真を含む）原稿が 2 枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ 1 枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 原稿用紙は（次ページ）のように有償頒布いたしております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限 講演申込みは 1 人 3 件以内といたします。
6. 申込方法 本誌クリーム頁末添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は（A）、（B）とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。（申込用紙は、クリーム頁末添付）
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、次ページ講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
 - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
 - 4) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
9. 申込締切日 昭和50年 7 月10日（木）17時着信まで
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
（社）日 本 鉄 鋼 協 会 編集課

講演分類

製 鉄						製 鋼				加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	特殊製鉄	フェロアロイ	製鉄耐火物	製鋼基礎	溶解・精錬	造塊	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄造	粉末冶金	溶接	金属物理解	金属組織	鋼の性質	鉄鋼材料	鑄鉄・鑄鋼	分 析	試験・検査技術	計自動制御	IE 一般技術	その他

オフセット用原稿用紙有償頒布について

講演大会における講演前刷原稿は、所定のオフセット用原稿用紙を用いお書きいただいておりますが、下記により有償頒布いたしますのでお知らせいたします

講演申し込みは別掲のごとく前刷原稿を同時に提出することになっておりますので、講演発表ご希望の方は締切日より 20 日以上余裕をもつて購入手続をとられるようお願いいたします。

記

1. 頒布料金 1 枚 5 円 (頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)

5 枚 95 円, 20 枚 215 円, 40 枚 375 円

10 枚 135 円, 25 枚 270 円, 50 枚 500 円

15 枚 190 円, 30 枚 295 円

2. 100 枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい

- 2 申込方法 ①オフセット用原稿用紙、②枚数、③送付先明記のうえ、④料金(切手でも可)を添えお申し込み下さい。

3. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 編集課

「鉄と鋼」特集号原稿募集のお知らせ

テーマ: 高 炉 の 炉 内 状 況

本会編集委員会では、会員各位に本誌をよりよくご活用いただけるよう年 2 回程度の特集号の発行を企画し編集いたしております。

製鉄関係では「鉄と鋼」第 58 年 5 号に「高炉の複合送風」をテーマとした特集号を発行しましたが、今回はゾンデ等による炉内状況の推定、特殊カメラによる炉内状況の観察、高炉の解体調査、モデルによる炉内状況の推定などを含め、標記「高炉の炉内状況」をテーマとする特集号を下記により編集いたすことになりましたので、関連した論文あるいは技術報告をふるってご投稿下さるようご案内いたします。

記

1. 原稿締切日: 昭和 50 年 7 月 31 日 (木)

2. 原稿枚数: (論文)・本会所定原稿用紙 (450 字詰) 図、表、写真を含め 50 枚以内 (刷り上り 10 頁以内)。
(技術報告)・本会所定原稿用紙 図、表、写真を含め 35 枚以内 (刷り上り 7 頁以内)。

3. 発行: 鉄と鋼 第 62 年第 3 号 (昭和 51 年 3 月号)

4. 原稿送付先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 (電 03-279-6021)

(投稿に当つては、原稿表紙に製鉄特殊号と朱書き下さるようお願いいたします)

昭和 51 年春季 (第 91 回) 講演大会討論会 討 論 講 演 募 集 の お 知 ら せ

昭和 51 年春季 (第91回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 焼結鉱とペレットの比較 座長 高橋 愛和

輸入ペレットの品質は自溶性焼結鉱と同等であるとの評価から、塊成鉱比が一つの指標として利用されている。自溶性ペレットが開発され、それぞれの特性も明らかにされ関心も還元粉化から溶融帯に移りつつある現在、次の3点を中心に高炉装入物としての焼結鉱とペレットとの比較について討論したい。①焼結鉱多量配合の高炉操業特性と焼結鉱代替としてのペレットの評価、②ペレット多量配合の高炉操業特性と要望されるペレットの品質、③焼結鉱とペレットの性状特性の比較。

2) 製鋼における脱磷と低磷鋼の製造 座長 松下 幸雄

将来の資源問題、製鋼原料としての溶銑または鉄くずにかかわる諸問題は、鋼材の品質保証への要求も含めて製鋼における脱磷および脱硫効率を一層向上させるよう要請していると思われる。一方鋼の連続鑄造の伸展によつて、この課題はさらに重要度を増してゆくものと考えられる。

これらの観点にたち、とくに脱磷に重点をおき反応効率の高い脱磷と復磷防止の方法、さらには低磷の要求を達成できる処理法について討論する。

3) 大型鋼塊の凝固と品質 座長 鈴木 章

機械、船舶の大型化とともに、鍛鋼品も大型化の途を進んできたが、その品質に対する要求は、大型になるにつれて厳しくはなつてもゆるめられることのないのが現状である。このような大型鍛鋼品の品質を大きく左右するのは、その鋼塊の品質であることは言うまでもないが、鋼塊の品質はまた、それが凝固するときに決まるものと考えられている。

この討論会では大型鋼塊の造塊技術、凝固特性および偏析や介在物など、その製造と品質に関するものについて、理論的な裏付けの有無にかかわらず、実際の経験やデータにもとづいた討論を期待している。

4) 圧延材の冷却 座長 中村 正久

圧延材の冷却は製品の品質、操業能率の双方に重大な影響を持つものであり、スラブ、原板、薄板、形鋼、線材などの圧延技術の各分野において進歩がいちじるしい。ラミナーフロー、ミスト冷却、輻射冷却あるいは直接焼入など多くの新しい考案が実施されつつあり、これらの問題について材質面、操業面、熱工学あるいは各種のシミュレーション研究などの面から広い議論を期待する。

5) ステンレス鋼腐食試験法 座長 久松 敬弘

最も典型的な不動態耐食合金であるステンレス鋼の腐食問題は局部腐食・粒界腐食・孔食・すきま腐食・応力腐食割れ一に関するものであるが、その研究はいわば、加速された“腐食試験法”に先導されて進んで来た。

この種々の腐食試験法の意味、実地における腐食との相関性の問題の整理から、材料選択のためのステンレス鋼腐食試験法を考えたい。

2. 申込締切日 昭和 50 年 8 月 11 日 (月)

3. 申込方法 「鉄と鋼」第9号に綴込みます申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に400字程度の講演の アブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 50 年 11 月 10 日 (月)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙4枚以内(表、図、写真を含め6,700字)に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第62年第1号(昭和51年1月号)にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第62年第2号(2月号)に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 51 年 2 月末日

前記2号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

第 33 回西山記念技術講座開催のお知らせ

テーマ：製鉄技術の最近の諸問題

主催 日本鉄鋼協会

第 33 回西山記念技術講座を下記により開催いたしますので、多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

I 期 日 昭和 50 年 6 月 24 日(火), 25 日(水)

農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL 03-279-0311)

II 演題ならびに講師

第一日	9:30~11:30	製鉄技術の最近の進歩	日本鋼管技術研究所	鈴木 驥一
	13:00~15:00	高炉用コークスの性状と最近の問題	住友金属工業本社	大竹 康元
	15:15~16:30	塊成原料の高温性状	東北大学選鉱製錬研究所	大森 康男
第二日	9:30~11:00	高炉炉内反応と炉内状況	新日本製鉄基礎研究所	近藤 真一
	11:15~12:45	高炉内基礎反応	北海道大学工学部	吉井 周雄
	13:45~16:00	炉体管理と操業	川崎製鉄千葉製鉄所	長井 保

III 講演内容

1) 製鉄技術の最近の進歩 鈴木 驥一

我が国の鉄鋼業は、戦後数次の合理化をへて、独特の臨界大型製鉄所を完成し、生産の大きな部分をこれに依存している。大型高炉はそのシンボルで大きな役割をになっているが、その安定操業を支えている技術上の諸要因について、発展の経過、諸外国との比較を交えて論説し、さらに急速な発展に伴って発生しつつある問題点と、その将来対策についても言及する。

2) 高炉用コークスの性状と最近の問題 大竹 康元

高炉の大型化と共に、低コークス比、低燃料比操業、あるいは高操業度を指向しての高炉操業で、その安定操業維持のために、常温および熱間のコークス品質規準に対する使用面よりの追求が厳しくなっている。一方、原料炭需給の逼迫と原料炭配合の制約による装入炭性状の質的低下（流動性の低下、不活性成分の増加）により、コークス品質水準が低下の傾向にある。現状の高炉操業におけるコークスの諸性状の影響とその対策を述べると共に、コークス製造面での品質改善方策について解説する。

3) 塊成原料の高温性状 大森 康男

良質な焼結鉱、ペレットなど塊成鉱使用割合の増加とそれら装入物の整粒強化、装入分布の改善はその他の高炉操業技術の進歩と相俟つて、高炉炉内の通気性や適性ガス流れの放善に著しい効果を齎らし、高炉の生産性向上と燃料比の低減に大きく寄与している。この効果をさらに高めるため、塊成原料の高温性状と高炉成績を支配する諸要因の関連についての理論考察、塊成鉱の成分、組成、組織および反応、物理的諸性質の系統的特徴把握、主な高温性状：粒子固有の還元速度、還元粉化、ふくれ現象、軟化および融着性、溶融分離・滴下性などの試験方法の選択について述べる。

4) 高炉炉内反応と炉内状況 近藤 真一

以前には高炉は一種のブラックボックスと見做され、操業の指針はインプットとアウトプットの統計的相関に頼らざるを得なかつた。一方、高炉内で進行する反応についての実験室内研究は広汎に行なわれていたが、実操業との結び付きは弱かつた。最近新しい検出端の開発、炉内より採取した試料の調査、さらには解体調査などにより、高炉内の状況はかなり明らかになった。これらの炉内状況調査の結果について述べるとともに、それらに立脚した見地から炉内反応を考えて見たい。

5) 高炉内基礎反応 吉井 周雄

最近の高炉解体試験や炉内試料採取による解析により高炉内における成分の変動が次第に明らかになり、シャフトの還元機構の外に朝顔、湯留りの現象の解明が進められて来ている。したがって、還元反応に触れた後、高温で起る吸炭、硅酸、硫黄の挙動を解釈するための反応研究について述べたい。

6) 炉体管理と操業 長井 保

高炉の操業は炉内の冶金反応が根底をなすが、現実の操業では設備の状態保守能力等に強い律速を受けており、操業者の関心も大半は設備に向けられている。一方、歴史的にみれば操業技術と設備技術とが交絡しつつ向上しながら高炉の目覚ましい発展を支えてきた。これが高炉の経験工学といわれる所以である。こうした実情をふまえてここに設備と操業の結びつきという観点から高炉の問題点の摘出をこころみた。

IV 聴講料無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 2500 円

VI 問合せ先 日本鉄鋼協会編集課 〒100 千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-6021

VII その他 講座の開催当日会場にて協会の刊行物を展示頒布いたします。

日本鉄鋼協会東海支部

学術講演(研究発表)講演募集案内

当支部では学術講演会(研究発表)を昭和50年6月16日(月)に名古屋郵便貯金会館において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

学術講演応募要領

(1) 応募方法

適宜用紙に講演題目、氏名、勤務先、連絡先、スライドの可否を明記のうえ、5月1日(木)までにお申し込み下さい。申込者には当方よりオフセット用原稿用紙をお送り申し上げますので、規定の様式により、概要原稿を作成し5月31日(土)(必着)までにご返送いただきます。

(2) 申込先

〒464 名古屋市千種区不老町

名古屋大学工学部金属・鉄鋼工学教室内

日本鉄鋼協会東海支部 Tel. 052-781-5111 内3372

第1回 JIM 国際シンポジウム開催

テーマ: マルテンサイト変態の新しい観点

First JIM International Symposium (JIMIS-1)

"New Aspects of Martensitic Transformation"

会期: 昭和51年5月10日(月)~12日(水)

会場: 京都または東京

1. 国際シンポジウム委員会

顧問 橋口隆吉, 西山善次

委員長 清水謙一

委員 荒木 透, 藤田英一, 須藤 一, 鈴木秀次
田村今男 (alphabet 順, 敬称略)

2. 開催時期 昭和51年5月10日(月)~12日(水)

3. 開催場所 京都または東京

4. 会議の規模 1会場, 3日間, 講演数約50件。
参加人員約200名

5. シンポジウムの内容(予定)

- ⑧ Mechanism of Martensitic Transformation.
- ⑨ Thermoelastic Nature of Martensites in Ferrous and Other Alloys.
- ⑩ Origins and Roles of Internal Defects in Martensite (including Inheritance of Defects in Austenite).
- ⑪ Mechanical Behavior during and after Martensitic Transformation.
- ⑫ Mechanism of Strengthening in Martensite.
- ⑬ Reverse Transformation of Martensite.
- ⑭ Stabilization of Austenite.

6. 講演申込 アブストラクト提出および参加登録

昭和50年12月31日締切

7. 参加費 25,000円(プレプリント, プロシーディングス, その他の印刷物と懇親会費を含む)

8. プロシーディングス

発表論文は TRANS. JIM に投稿し, それを抜刷りしてプロシーディングスとすることを検討している。なおプロシーディングスはシンポジウム終了後1年以内に参加者に配布する予定。

9. サーキュラーおよび参加登録票の配布

実施要領および参加申込方法の詳細は JIMIS-1 サーキュラーでお知らせする。希望者はなるべく早めに(遅くとも7月末日までに), 下記へ申込めたい。

申込先 (980) 仙台市大町1-1-13 日本金属学会
第1回 JIM 国際シンポジウム委員会
(電話 0222-23-3685)

10. 本シンポジウムの内容に関する問合せ先(事務的問合せは申込先宛に)

(565) 吹田市大字山田上 大阪大学産業科学研究所
清水謙一(電話 06-877-5111, 内線 3555)

または

(560) 豊中市待兼山町1-1 大阪大学基礎工学部
藤田英一(電話 06-856-1151, 内線 2361)

ESR 文献集の有償頒布について

鉄鋼基礎共同研究会「特殊精錬部会」の第6分科会は初年度の活動として, 第1~第5分科会の今後のESR研究活動を円滑に実施するための参考資料, ならびにESRに関係する研究者および現場技術者の操業指針を目的に, ESRが本格的に開発され始めた1950年代後半より1973年末迄のESRに関する国際シンポジウム, 学協会誌および専門誌に発表された海外(USSRを除く)および国内の論文資料を可能な限り収集し, ESR文献集を編集してまいりました。

その文献件数は, 欧文492件, 邦文140件ありますが, 内容は収集した文献, 資料のそれぞれに掲載してある図, 表, 写真を主体に分類整理し, 欧文および邦文別に文献集を編集したものです。

1. 価 格 2,000円(送料込)

2. 申込方法 書名, 部数, 送付先を明記のうえ代金を添えて, 現金書留にてお申込み下さい。

3. 申 込 先 100 東京都千代田区大手町経団連会館3階 日本鉄鋼協会技術部(03-279-6021)